３．１１避難者の声

写真の本は東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream(サンドリ)が編集して、2017 年 3 月 11 日に発行された。本書は避難者の「声」を届けませんか、避難者おすすめ映画の感想、意見陳述書、研究論文などから構成されている。127 ページにわたり、こころに迫る避難者らの「叫び」「メッセージ」が伝わってくる。会の合言葉でもある「当事者自身がアーカイブ」が、本書サブタイトルという。

「はじめに」から―2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が起きました。地震による津波や建物倒壊での甚大な被害に加え、東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故により、私たちの生活は大きく変わりました。

なぜこれほどまでに広範囲にわたり多くの人が「避難する」という選択をせざるをえなかったのか。そこには紛れもなく「放射能」という実在する汚染があるからです。誰にも消すことのできない事実がそこに存在するのです。

しかし残念ながらその事実は「事実」として明らかにされることはなく、違った伝わりかたをしながら何事もなかったかのように時が過ぎていきます。

原発事故から 6 年が経過し、今もなお故郷に戻れず避難を続けなければならない人々が多く存在しています。ここに寄せられた避難者の声一つ一つがその事実を物語っています。原発が爆発したという事実、決して外に出してはならないものが大量に放出されてしまったという事実、そして、そこにはまだたくさんの汚染があるという事実、そのどれもが偽りのない事実であり、事故前には存在しなかったものです。事実を変えることは誰にもできません。今ここで私たちがすべきことは、一つ一つの現実と向き合い「真実を見据える」ということではないでしょうか。一人でも多くの方々がこれらの事実を「事実」として受け止め、ともに歩んでいただけますことを切に願います。(ひがしだあさみ)

ぜひとも、多くの人に本書を手にとってもらいたい。紹介したいことは多いが、サンドリの代表で、原発賠償関西訴訟原告団代表である森松明希子さんが大阪地方裁判所に提出した意見陳述書の最後だけにとどめる。

陳述書は「20 年後のあなたへ」という、愛する子どもたちへの手紙からはじまる。最後に「裁判長、人の命や健康よりも大切にされなければならないものはあるのでしょうか？ 私は、放射線被曝から免れ、命を守る行為が原則であると考えます。」

東田さんや森松さんの心にひびく話は、大阪弁護士会館や高槻市民会館などでお聞きした。こうして本書をじっくり読むと、福島から必死の思いで避難されてきたことが、あらためて分かった。避難者の皆さんから学ぶことは多い。情報発信につとめたい。

(2018 年 6 月 15 日)